

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立常盤小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	・ICTの活用を含めた基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることはできている。 ・習熟の不十分な教科・領域等があることから、学年毎の特性を考慮しながら習熟を図っていく必要がある。また、個人差の幅をなるべく小さくできるよう、学習支援の在り方を工夫・改善していきたい。
思考・判断・表現	・各教科の単元における振り返りとして、小論文を継続して取り入れてきたことで、学習してきた内容を再整理していくことが思考の深化につながっているため、今後も継続して取り組ませていきたい。 ・学年の発達段階に応じて、小集団の意見交換を通して自分の考えをまとめていく活動や、収集した情報を関連付けて考察する活動を積極的に取り入れ、「考える力」を伸ばしていけるようにしたい。

今年度の課題と授業改善策		
①	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 基礎的・基本的な学力は全体的に定着しているものの、高学年の主要・基礎的な分野では多くの学年で習熟がみられなかった。 ＜指導上の課題＞ 授業中に個人差があり、思考習得への対応が効果的に進められ、定着度の向上を図ることができていない必要がある。	⇒ ・スモールステップやグループワークなどを活用し、継続的に学習した内容に繰り返し取り込む機会を設ける。【個別学習、家庭学習等で実施】 ・単元ごとに学習に取り組み、その単元での学習の振り返り、内容の定着を図る。【各教科の単元ごとに実施】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 基礎的・基本的な学力は全体的に定着しているものの、高学年では、適切なグラフの選択や数値読み取りのミスなどを見られる。また、数値を読み取る際に、読み取りのミスや表示など、誤差の発生がみられる。また、数値を読み取る際に、読み取りのミスや表示など、誤差の発生がみられる。 ＜指導上の課題＞ 内容を整理する機会が少なく、振り返り、取り込み、思考・判断の機会が不足している。	⇒ ・高学年では、数値を読み取る際に、読み取りのミスや表示など、誤差の発生がみられる。また、数値を読み取る際に、読み取りのミスや表示など、誤差の発生がみられる。 ・高学年では、数値を読み取る際に、読み取りのミスや表示など、誤差の発生がみられる。また、数値を読み取る際に、読み取りのミスや表示など、誤差の発生がみられる。

調査結果分析(2月)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年、教科担当)

児童生徒の学力の向上

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	・ドリルワーク、スタサプ等の学習アプリの活用やSA等による個別指導により、基礎・基本の定着や個々への対応を充実させることができた。ICTの活用を向上させることで学習の最適化についてはできたものの、スクールダッシュボードの活用については課題が残るため、方法について検討していきたい。 ・昨年度までの課題に対する指導を、各学年の発達段階に応じて行ってきたことにより、成果が見られた内容が多かった。
思考・判断・表現	B	・単元毎の小論文での学習の振り返りを繰り返し取り組むことで、その内容が充実し、学習内容の定着と思考の深化につながった。また、ICTの活用や小集団活用による協働学習を積極的に取り入れたことで、相互のコミュニケーションが活性化し、思考を深めることにつながっていた。今後も継続していくことで、さらに充実した活動ができるものとする。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・国語及び算数の「知識・技能」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。 ・国語では、昨年度の市学習状況調査で課題となっていた、主題と文脈との関係を探る問題において、全国平均を大きく上回る結果となっている。 ・算数では、算数問題の数量関係を捉えて立式したり、その計算を行ったりすることについて、全国平均を大きく上回る結果となっている。
思考・判断・表現	・国語及び算数の「思考・判断・表現」は、全国平均を大きく上回っており、昨年度までと比較して同等の結果となっている。 ・国語では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くこと、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。全国平均は上回っているものの、条件を満たすよう記述することができていない割合が高かった。 ・算数では、表やグラフから必要な数値を読み取り、算式や式を用いて記述することに課題があった。全国平均は上回っているものの、条件を満たすよう記述することができていない割合が高かった。

児童生徒の学力の向上

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・調査結果の市平均を上回っており、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力の維持・向上を図ることはできている。 ・理科では「粒子」を柱とする領域での物の状態と温度の関係について、また、「地球」を柱とする領域での地震の形成と地層物の関係について、正しく理解できていない結果となっており、可視化することが難しい事象についての概念の理解と定着に課題が見られた。 ・算数では「データの活用」におけるグラフの正しい読み取りに課題が見られ、その習熟が必要である。
思考・判断・表現	・調査結果の市平均を上回っており、前年度までと同程度の水準を維持している。学習ツールとしてのICT活用と従来の学び合いがバランスよく実施されてきた成果と考える。 ・国語では「話すこと・聞くこと」において、意見の共通点や相違点を着目し、考えをまとめることに課題が見られ、要点を捉えた際の聞き手が身に付くような指導の工夫が必要である。 ・社会では「歴史と人々の生活」で、年表や歴史的出来事から何がどのように行われたか、その過程を読み取り考えたりすることに課題が見られ、読み取った情報の整理や関連付けで考えられるような指導の工夫が必要である。

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	・年度当初に昨年度の課題と改善策を策定し、各教科でそれを意識した指導を行っている。基礎・基本の定着について、ICTの活用を中心に策定した個別最適化指導をこれからも継続して行うことにより、高めていけるようにしていきたい。
思考・判断・表現	B	・高学年でのまとめや振り返り等、思考過程での目的に沿った、自分の考えを記述する活動を取り入れ、指導を行ってきた。今後もその指導を継続することで、目的や意図に応じて自分の考えをまとめる力を高めていきたい。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語・数学・英語・読解力における「書く」領域 算数・「データの活用」 <指導上の課題> 児童個々への対応を効果的に進め、定着度の差をできるだけ少なくしていく必要がある。	・スクリーンショットの学習履歴を活用したり、SA等による個別指導を行ったりするなど、学習の個別最適化を図る。【月1回以上指導方針確認】 ・1人1台端末を活用し、スタディサプリやドリルパークによる個別最適化問題演習に取り組み機会を設ける。【事前学習、家庭学習等で実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語・数学・英語・読解力における「書く」領域 算数・「データの活用」 <指導上の課題> 内容を重複学習する単元が少なく、繰り返し取り組んだり、思考を深めたりする機会が不足している。	・各教科でクラブを取り扱う際に、読み取り方のポイント示すなど、資料情報から多面的に思考できるようにする。【関連教科で実施】 ・自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための工夫を推進できるように、授業改善を図る。【国語科を中心に各教科で毎時間】

<小6・中3>(4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議、校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	調査の振り返り(4月) ①調査問題の解説 ③振り返りの終了報告
思考・判断・表現	結果提供(7月)

調査結果分析(7～8月)
 ①結果分析(管理職・学年主任等)
 ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		学力向上策【実施時期・頻度】
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)